ISSN. 0910 - 4674

岡山地方史研究

2024.8　163

論文
備中国吉備津神社における社家間の相論と吉田神道の受容
……………………………………………………… 四　宮　　浩（1）

史料紹介
明治三十一年三月の衆議院議員選挙をめぐって
……………………………………………………… 前　田　昌　義（24）

博物館めぐり
岡山県立記録資料館企画展「水をおさめる―地域総がかりで―」・
総社市まちかど郷土館企画展「総社市近郊の水害伝承と治水施設を訪ねて」
を見学して
……………………………………………………… 森　元　理　稀（31）

読書日記
アラン・コルバン著　渡辺響子訳『記録を残さなかった男の歴史
ある木靴職人の世界　一七九八―一八七六』（藤原書店、一九九九年）
……………………………………………………… 内　池　英　樹（35）

編集後記 ……………………………………………………………… （36）

岡 山 地 方 史 研 究 会

ある」としている。ただ、一八七二年になると識字率は上昇し、ピアゴは子孫が学習する機会を率先して探していたのではないかと仮説を立てている。さらには、子どもたちには学ぶ機会を設けようとしており、学校に通っていた名簿の中に、ピアゴの子どもたちの名前が出てきている。（同書一〇七～一一四頁）。

コルバンは、とても丁寧に資料を集め、それを整理してピアゴ自身の置かれた状況を紹介するだけでなく、ピアゴの教育に関する姿勢まで明らかにしている。それも無理な想像ではなく、積み上げられたデータ（古文書、簿冊等）で、読者が自然と読むことができるようにしている。細かな内容について興味のある方は、是非読者諸氏が実際に読んでいただく方が良いと思う。私個人としては、本書を読んだおかげで、自分自身がどのように史料に向き合うべきなのかを、改めて考えるきっかけとなった。

博物館で展示を企画する際に、関係する資料がすべて網羅できる訳ではないし、場所も限られていることもある。したがって、たくさんの関係資料を網羅した上で、何が適切なのかを慎重に検討することで、より精度の高い展示をするように気をつけるようになった。業務の関係で、戦国期の展示を行うようになると、前述のことはより強く私に求められたと思っている。ただし、専門的な内容を十分に咀嚼できていなかった点も残されていたため、どこかでリカバリをしたいと願っていた。

そうしたところ、コロナ禍の中、私は備前軍記・備中兵乱記という二冊の軍記物を編集する機会を与えられた。いずれの資料も、史実とは異なる等の指摘をされてきた近世史料だが、用いることができる内容を、次の時代に役立てることはできないかという観点で編集するようにした。一九八〇年代に、多くの時間をさいて現代語訳をされた柴田一氏、加原耕作氏の仕事を、次世代につなげたいという願いも、私自身にあった。コルバンが行った確実な資料を集め語ろうとしたレベルまではいかなかったが、可能な限りの一次史料や歴史研究の成果を収集し、中島元行や馬場重介らが見たであろう戦国時代の岡山の姿を描き出そうと思った。どこまでやりきれたのかは分からないが、より確実な岡山県の戦国時代の状況の再現にわずかだが近づけたのであれば幸いである。

これからもどこかでささやかな歴史の学びを続けられたらと願っているのだが、その際には、丁寧な資料調査・検討という当たり前のことを、続けていきたいと思っている。

以上、拙い読書の感想と、それに基づく自分の振り返りを書き散らして、与えられた役割を終えたいと思う。

【編集後記】

今号には論文、史料紹介、博物館めぐり、読書日記を掲載しています。いずれも力作ですので、ぜひご味読ください。（H）

岡山地方史研究・一六三号・二〇二四年八月十日
発行・岡山地方史研究会　代表・山本太郎
事務局・岡山市北区伊福町二―一六―九　ノートルダム
清心女子大学文学部　久野研究室気付・小野功裕
TEL　〇八六―二五二―二四八二
編集局・岡山大学文学部日本史研究室気付・東野将伸
印刷・友野印刷㈱・岡山市北区高柳西町一―二三
TEL　〇八六―二五五―一一〇一㈹